



11/21に実施の中3生の道コンと結果をふまえて個人面談をしました。

19日から変則的な冬期講座



とにかく一生懸命勉強する高校生。積み重ねることが結果に繋がる。

21期生の森君、新球場の仕事も一段落ついている。3Dプリンタを買っているそうです。楽しそう！

【社会が大きく変化する2021年】
コロナ禍で長期休校から始まり、年末になっても収まる気配のないコロナの影響は社会全体に及んでいます。倒産や廃業する企業、それによる失業者の増加、学校に通えなくなる大学生、深刻な自殺者の増加やいじめや不登校の増加など最悪の状態が続いています。

2021年、社会は大きく変化せざるをえないでしょう。今の小中高生にも大きく影響します。学力だけでは通用しない時代です。新しい年は格差社会です。そのことをしっかりと考え、行動しましょう。

【英語無能国民の驚くべき事実】
経済界、および蜜月関係にある政府が、「グローバル人材」を強調する理由は、「英語が話せない」という点。世界で一番英語がうまいのはイギリス人だ。なのにイギリスはほぼ二十世紀を通して経済的に斜陽だった。英語が世界一苦手な日本人は、その間に最も大きい経済成長を遂げた。世界一下手は誇張ではない。二〇一七年のTOEFLの結果を見る

と、日本は先進国(OECD)三十六カ国中の圧倒的ビリ、アジア二十九カ国中の二十六位、スピーキングに関しては何と全百七十九カ国中のビリだ。日本人は英語に無能と言ってしまうのである。

この英語無能国民が、世界三位のGDPを誇り、自然科学でノーベル賞を二十四人も獲得している。今世紀に入ってからアメリカに次いで世界二位だ。こう考えると、むしろ日本こそは、国民の英語力が一国の経済力や知的生産力に無関係、という驚くべき事実を体現しているのである。経済界や政府は一体いつまで「グローバル人材育成」という愚論にしがみついているのだろうか。

忘れてならないのは、日本のノーベル賞科学者のほぼすべてが、小学校から大学院まで日本の学校に通い、科学の初歩から最先端までを、日本語で学び研究し、ノーベル賞に至ったことである。こんなことが可能な国は、世界でも米英仏日露の五カ国くらいしかないのではないかと。我が国の学問水準の高さは、日本語で学習し研究できるといふ土壌によるものとも言える。私達夫婦の仲人であるフィリス賞受賞の小平邦彦先生はかつて、「日本語は数学を研究するのに有利だ」とさえ言われた。日本語の含みも曖昧さが、思考に幅をもたせ創造性の飛躍を許してくれるというのだ。

ITへの習熟もグローバル人材に必要ということ、小学校からパソコンと親しませることになっていくが、これもつもらないことだ。よいソフトやAIを作るには論理的思考が必須で、小中学生はパソコンにかまけていられるヒマがあったら数学をしっかりと学ばないといけない。

「グローバル人材育成」を愚論と切り捨てたが、それは愚かなだけでなく我が国に大いなる実害をもたらす。現在、小学校では五年生から英語が教えられているが、二〇二〇年度より、五、六年の英語は正式教科に格上げされ週二、三時間ほど教えられる。教えるのは担任だ。

これには反対論がある。ただし、「小学校教員のほとんどが英語を話せないのに何をどう教えるのだ」「ネイティブが教えない限り反対」「中学英語の内容を小学校に下ろすのなら反対」「私立中学入試に英語が入るだろうから、小学生の負担が飛躍的に増し、可表そう」といった技術論が大半だ。小学校での英語は、誰がどう教えようとダメなものだ。大いなる実害を三つだけ記す。

国民のエネルギーの壮大な無駄

一つ目は、壮大な無駄ということだ。日本人の大半は、たとえ小学校一年から毎週三時間ずつ英語を学習しても話せるようにならない。英語の発音は多少よくなるかも知れない。しかし国語や算数が減らされるだろうから、漢字や九九のままならない日本人が激増するだろう。英語を使う可能性のある職業(たとえば外交官、商社マン、学者、スチュワーデスなど)につきたい希望を持った者だけが中学校

で全力で勉強すればよい。授業だけでは到底足りず、週に二十時間くらいの猛勉強は必要だ。

外国語学習は、一気呵成の集中が最も効率的なのだ。小中高大とタラタラ続く日本の英語教育ではまったく効果が上がらないのは、TOEFL結果などから明らかだ。ほとんどの日本人は、ものにならない英語、役に立たない英語、に多大な時間と労力を強いられる。この無駄をこれ以上大きくしようというのだから呆れるばかりだ。

それに加え、AIの進歩である。あるAI専門家は私に、「あと六、七年もすればスマホに音声自動翻訳ソフトが入ります」と言った。今でも出来ているが、六、七年後には実用に耐える、性能のよいものが備わるといふのだ。先日、京都の寿司屋に寄った店主に「京都だから外国人の客も多いでしょう。外国語はどうされていますか」と問うと、「これがあますから」と言いつつ、棚から白色の、手のひらに乗る機器を得意気に持って来た。店主は「これはすぐれものです。日本語と数十カ国語の同時通訳をしてくれるんです。ただ、買うと何十万もするので月三万円借。ているんです。何か日本語で注文してくれませんか」と言いつつあるボタンを押した。私が注文すると直ちに英語に翻訳されてきたのでびっくりした。

これ以上のものが六、七年後にはスマホ機能に加わるのだ。今の小学生が社会に出た時には、日常会話程度なら相手がこの国の人であっても、ボタンを押すだけとなる。八割以上の日本人は、英語の本や新聞や論文を読まないし、英語で難しい商談や外交交渉や演説をしないから、これで十分足りる。国民全員に小中高大と英語学習を強いるのは、どう考えても壮大な無駄であろう。

語学ができるほどだんだん馬鹿になる

二つ目は、日本人としての自覚の妨げになるということだ。幼い頃から英語を学ばせ米英人に教えられ、文化を無垢な心に刻印されるということでもある。それは子供達が日本の文化、伝統、情緒、道徳のよさに触れる機会を減少させ、日本人としてのアイデンティティ形成の妨げとなる。さらには、英語を流暢に操る米英人へのコンプレックスを助長する結果となる。あつてはならない英米文化の世界支配、に負担する結果にもなりうる。外国文化を忌避する必要はないが、小学校ではまず自国の文化、芸術、文学などに触れ、自国への自信と誇りを身につけることが先決であり肝要である。

三つ目は教養を積みむ妨げとなることだ。小中高で英語などにかまけていると、古今東西の名著を読む時間がとれず、教養が身につかない。例外的に優秀な者を除き、「教養と外国語並ぶ立たず」なのだ。かつて英文学者の中野好夫氏は、「語学ができるほどだんだん馬鹿になる人間の方がむしろ多い」と述べた。教養の大切さは近著「国家と教養」(新潮新書)に詳述した。そこでも紹介したが、ある商社マンがロンドンに赴任していた時、取引先の家に招かれた。そこで尋ねられたのは「縄文式土器と弥生式土器はどう違うのですか」だった。「元寇は二度ありましたが、二つは違うのですか」とも尋ねられたという。こういう質問に答えられないと、知的につまらない人と思われ、次に招いてくれなくなり商談も進まなくなるといふ。私自身、ケンブリッジ大学でフィリス賞のトンプソン教授に初対面した時、こう問われた。「漱石の『こころ』の中に出てくる先生の自死と三島の自死とは関係あるのですか」。英語など、世界に出ればカタコトでいいのだ。教養があるかないかの差。話し方より話す内容なのである。作家・数学者藤原正彦 文芸春秋より

31	日	★入試直前ゼミ④
30	土	★入試直前ゼミ③
29	金	
28	木	
27	水	
26	火	
25	月	
24	日	★入試直前ゼミ②
23	土	★入試直前ゼミ①
22	金	
21	木	
20	水	
19	火	
18	月	通常持授業
17	日	休
16	土	◆冬期講座⑯(中1・中2)
15	金	通常持授業
14	木	通常持授業
13	水	通常持授業
12	火	休
11	月	◆冬期講座⑮(中2・3) ◆中1道コン
10	日	◆冬期講座⑭(中1・3) ◆中2道コン
9	土	◆冬期講座⑬(中1・2) ◆中3道コン
8	金	◆冬期講座⑫(中1・中3)
7	木	◆冬期講座⑪(中1・中3)
6	水	◆冬期講座⑩(中1・中3)
5	火	◆冬期講座⑨(中1・中3)
4	月	◆冬期講座⑧(中1・中3)
3	日	年末・年始休み
2	土	年末・年始休み
1	金	年末・年始休み

公立高校入試まであと61日
共通テストまであと16日

コロナの感染が広がっています。検温、マスク、手洗いを!

ストップ 過保護・過干渉!

1月の予定

日本の「感染者パッシング」「マスク警察」は、なぜ？

コロナ禍があぶり出した「世間」の闇 (12月号からの続き)

戦中の「隣組」のように

——コロナ禍で起こった「自粛警察」や「感染者パッシング」も、「世間」の復権や強化、「同調圧力」の高まりの延長線上で起こったと？

◆ええ。もともと「世間」が強化されていたところに、コロナ禍が起きた。「誰もが当事者」になり、同調圧力がかつてない強まりを見せ、目に見える現象となったのでしょうか。

「自粛警察」や「マスク警察」は普段から極端に暴力的な人によるものではないと思います。きつとごく普通の、世間の中ではむしろ「良い人」と思われている人が、「よかれ」と思って行動した結果ではないでしょうか。

実際に張り紙をする人や電話をする人の数は多くなくとも、「自粛していない人は罰せられて当然だ」という心情を共有している人の裾野はとても広いと思います。

だからこそテレビはこれらの現象を取り上げるし、視聴率も稼げるのです。「とんでもないヤツがいるぞ」と、営業しているパチンコ屋をワイドショーで放映する。

いわば戦中の「隣組」です。「世間」が近代化されず、「個人」が確立されず、いまだお互いに縛り合い、監視し合う社会です。

空気にあらがうために

——さすがに息苦しいです。どうすれば良いのでしょうか？

◆一人一人が、演出家の鴻上尚史さんが言うような「空気を読んでも従わない」を心がけるしかないと思いますね。

医療従事者や感染者への差別的な発言を見聞きしたら、「それ、違うんじゃないかな」とちゃんとその場で言う勇氣。空気を読んだとしても、それに従わないことを一人一人ができるかどうか。

山本七平さんの『『空気』の研究』にもありましたが、戦中、B29爆撃機に対して皆で竹やりで撃墜しようという訓練をしている時に「竹やりじゃB29に届かない」と言えるかどうか。沸騰した空気に「水を差す」こと。「みんながやってるから」ではなく、個人として振る舞えるか。

——ツイッターなどでは、「感染者差別は良くない！」「感染者は加害者じゃない、被害者だ」などの発言をよく見かけますが……。

◆僕が気になるのはむしろ、日本人のSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）におけるアカウントの匿名率の高さです。特にツイッターにおける匿名率は、日本は際だっています。匿名アカウントで「感染者差別は良くない！」と声高に書く人は、自分の暮らしの中で、顔の見える人間関係の中でちゃんと発言できているのでしょうか。

ツイッターを使うなら、まず実名アカウントで発言できるようになるべきだと思います。

ネット上だけではなく、**実際に顔の見える人間関係の中でも場の空気を乱すことを恐れず、個人として発言する。その積み重ねが個人の成熟につながり、「世間」に風穴を開けていくのではないのでしょうか。**



「呪いの言葉」を口にしない

——子育ても大事かもしれませんね。「他人に迷惑を掛けちゃダメ」と言って子育てするのはもうやめよう、というキャンペーンはどうでしょうか。若者の自殺率を下げるかも知れない……。

◆それはやってみる価値がありますね。

実際、呪いの言葉なんですよ。「他人に迷惑を掛けるな」というのは。そうやって育つうち、「他人に迷惑を掛けるのは世の中で一番悪いこと」という「世間のルール」が内面化されてしまうのです

佐藤直樹さん＝藤井太郎撮影

——自分も他人も縛るわけですね。コロナ禍で私、「職場の感染者第1号になりたくない」って言葉を口にしないようにしよう、と心がけています。あれを多くの人が口にすることで、自分も他人もそういう価値観で縛ってしまい、結局、「病気より世間が怖い」というような社会を醸成することに加担してしまうのではないかと。

◆それも一種の呪いの言葉ですからね。

コロナ禍は「世間」を強化し、その存在をあぶり出した。しかしそのお陰で、この社会の息苦しさの正体に気付くきっかけになったとも言える。

コロナ禍で、なんとか「世間」の存在を読み解き、自覚し、「個人」としての行動を心がけ、この「同調圧力」を緩めていくきっかけにしたいものです。

毎日新聞 2020年9月29日

佐藤直樹 1951年仙台市生まれ。九州工業大名誉教授。評論家。専門は世間学、刑事法学

佐藤直樹 1951年仙台市生まれ。九州工業大名誉教授。評論家。専門は世間学、刑事法学。さとう・なおき 1951年仙台市生まれ。九州工業大名誉教授。評論家。専門は世間学、刑事法学。99年「日本世間学会」の設立に関わった。8月に出版した演出家、鴻上尚史さんとの共著「同調圧力 日本社会はなぜ息苦しいのか」が話題の書に。「なぜ日本人はとりあえず謝るのか」「なぜ日本人は世間と寝たがるのか」「加害者家族パッシング」など



学校とわたし

自主性学んだ小学校での課題 マルハニチロ社長・池見賢さん

小学校は兵庫県尼崎市の公立校に通っていました。5、6年生の時の担任の先生から大きな影響を受けました。毎週、教科ごとにテーマが与えられ、5人くらいの班でそれを調べて「瓦版」にして発表しました。当時はインターネットもない時代。班のみんなで図書館に籠もり図鑑や教材を読みあさりしました。

理科で「水と土の温度変化の違い」というテーマを与えられた時には、自宅の庭で温度計を使って実験し、「岩石の成り立ち」の時は近くの山へ石を集めに行きました。ただ席に座ってぼんやり授業を受けているよりも楽しかった。受け身の姿勢ではなく、自主性や創造性の大切さを先生は教えたかったのだと思います。学級委員だった私は、いつも班を仕切っていて自然とリーダーシップが身に付きました。企業人となってからは資料やデータだけでなく「現場」を重視してきましたが、先生の教えが影響したのかもしれない。

中学と高校は、神戸市にある私立の六甲学院に通いました。カトリック修道会のイエズス会を母体とする中高一貫の男子校で、厳しい規律をたたき込まれました。毎日2時間目と3時間目の間、全校生徒が上半身裸で校庭を15分間走るのが日課でした。冬場に雪が降っても関係ありません。下級生は上半身裸に裸足で校内のトイレを掃除する決まりで、先生に厳しくチェックされました。通学の電車で座席に座るのも厳禁。喫茶店に入るのも禁止で、高校卒業まで6年間、一度も足を踏み入れませんでした。当時は「当たり前」と思っていますが、今思えば、あの6年間で胆力や粘り強さが培われたと思っています。

学校は六甲山系の中腹、標高200メートルほどの場所にあり、教室の窓からは瀬戸内海が見渡せました。あの海の先に広がる世界を見てみたいとずっと思っていて、将来は海外事業に携わることができると心に決めていました。大学卒業後、水産大手の大洋漁業（現マルハニチロ）に入り、南太平洋のソロモン諸島やタイに通算16年間、赴任しました。ガダルカナル島で未踏のジャングルを切り開いて缶詰工場を造ったりしましたが、ハードな仕事も気にならなかったのは学校時代のさまざまな経験のおかげと思っています。

【聞き手・袴田貴行、写真・大西岳彦】

毎日新聞 2020年12月21日

池見賢（いけみ・まさる）

1957年生まれ。兵庫県出身。京都大農学部水産学科卒。大洋漁業（現マルハニチロ）入社後、タイの子会社の社長などを経て2020年4月から現職。

転校生のお陰で話せるように 落語家・桂あやめさん

こう見えて小学2年生まではクラスの誰とも話せない子でした。今なら「場面緘黙（かんもく）症」（特定の状況で話せなくなる状態）と診断されるんでしょうね。家族や幼なじみとは普通に話せても、学校などの集団に入るとなぜか話せなくなるんです。

きっかけは幼稚園。友達から遊びに誘われ、私が固まっていたら「この子何もしゃべらへん。気持ちわるー」と言われて。それから「しゃべらへん子」になりました。小学校でも同じ幼稚園の子が「あの子しゃべらへんねん」と皆に言う。先生は気にかけてくれましたが、私は心の中で「嫌々遊ぶ友達なんかいらん！」と叫んでいました。休み時間は鉄棒をしたり本を読んだり。とにかくずっと一人。孤高の少女でした。

転機は3年生の時。転校生が隣の席になりました。私が話せないと知らない彼女は「教科書見せて」と普通に話しかけてくれ、私も構えずに「ええよ」と言えた。そこから殻がパーンとはじけた。卒業の頃には「静かに！」と言われるほどの子になりました。

高校はスカート丈を先生が物差しで測るような女子校で、体育祭の練習も軍隊みたい。画一化された中に入るのが嫌で学校をやめました。しばらく親には言えず、学校に行くふりをして家を出て繁華街の大阪・梅田に行っていました。当時到来していたのが漫オブーム。お笑いを見に行くのが若者に流行っていて、アルバイトがない日はうめだ花月に通いました。私もやりたいと思いましたが「二人でやる漫才より一人でできる落語が好きやな……」と。周囲からは「女の子は無理」と言われましたが「行ってみな分からへん」と一番好きな小文枝師匠（五代目桂文枝）の門をたたきました。

実は今でも人と話すのは苦手です。「落語家」の看板があるからしゃべれる。全然知らない人の間にポンと入れられると小2に戻ってしまう感じです。学校は嫌いでしたが、多くの出会いがありました。転校生のお陰で話せるようになり、休み時間に読んだ本の世界は新作落語の創作につながっています。小学校の先生は寄席に来て、落語家になった私を見て泣いて喜んでくれました。もし幼い自分に会えるならこう伝えたい。「大丈夫。今は好きなこととして待ってたらええねん」【聞き手・山下智子、写真・菱田諭士】毎日新聞 2020年12月7日

桂あやめ 1964年、神戸市生まれ。82年に故五代目桂文枝に入門し、94年に三代目桂あやめを襲名。女性目線の新作落語を得意とし、2002年に文化庁芸術祭賞演芸部門優秀賞、18年に神戸市文化奨励賞。